



## プロジェクトX ~酪農民と雪印のあゆみ~

今年2020年は雪印乳業食中毒事件(2000年)から20年の節目の年を迎える。そこで事件から20年を迎える今、【プロジェクトX】では酪農民と雪印の歩みを振り返る。今回は酪青研と雪印酪農集団の足跡に迫る(引用文献:雪印乳業史、酪農風雲録)。



### 「使命感に燃え、酪農民と共に歩んだ男たち」

かつて「雪印の補導員」と呼ばれた男たちがいた。のちの「酪農係」と呼ばれるその男たちは、ほとんどが獣医師で各乳業工場に配属され、酪農家から依頼された乳牛診療をはじめ、乳牛衛生・飼養管理・乳質改善・酪農経営など酪農全般に渡って補導を行ってきた。全盛期(昭和40年)には約360名(北海道200名・都府県160名)の堂々たる布陣で、雪印の酪農集団が最も充実した時代であり、史上最強の軍団だった。この集団が精力的に活躍した時代はわが国酪農・酪農民がまだ発展途上でかつ貧しかった。こうした中、雪印の酪農係は使命感に燃え、酪農民の貴重な財産「乳牛」を守り少しでも生乳生産を伸ばし酪農民と共に歩んできた。「酪農民と共に生き、共に栄える」を基本に敷設された太いレールの上には、栄光だけではなく挫折、そして苦悩もあった。ここでは酪農と共に生き、共に歩んだ誇り高い男たちの群像と酪青研とのつながりを当時の酪農係の手記を基に紹介していく。

### 「戦後の大混乱の中、産声をあげた北海道酪農青年研究連盟」

「痩せた土地に1頭の痩せ細った乳牛を借金で買った。貧乏の底にあえぐ酪農民が悪条件下でどうやって酪農を発展させるか。実践の中からそれを探求する」この言葉は昭和4年に後の酪青研初代委員長の太田正治氏が、若者と立ち上げた八雲酪農科学研究所の設立時に発した言葉である。戦前・戦後は全道各地にはっきりとした組織をもたない青年グループが暗中模索している時代背景があった。「敗戦後の混乱の中で北海道酪農を立て直し、一日も早く先進国水準に引き上げる」「中核となる酪農青年が盛り上がる同志的な運動を組織化しよう」という情熱の元、当時の北酪社(後の雪印乳業の前身)の酪農部員と酪農民が共に立ち上げたのが酪青研のスタートである。酪農民が率先して各部落で結成を促した結果、昭和23年1月に70人以上の会員で結成されたのであった。そして北海道を一丸とした連盟組織を作ろうと奮起した酪農民により昭和23年7月27日、野幌機農学校で結成総会が開催され、初代委員長の太田正治氏を中心に酪青研が本格的に歩みだしたのであった(続く)。

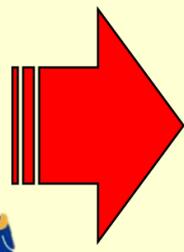


## 大樹工場通信 ー福利厚生施設を建設中ー

国道236号線沿いの旧排水処理場跡地の更地工事が4月に完了し、現在従業員のための福利厚生施設を建設しています(酪青研会員の皆さんからの関心も非常に高く「あれは新しい工場の一部なの?」など質問を受けることがあります)。新型コロナウイルスによる影響で建設工事にも影響が出ておりましたが、現在建設は順調に進んでおります。国道沿い建設していることから大変目立ち、皆さんもいつ完成するのか!等々気になると思いますが、暫し温かい目で見守っていただくと幸いです。



Before:2020年4月撮影



After:2020年6月撮影

## 特集 とかちびと ー十勝の地で生きる人ー

今回は南部地方連委員長に就任された岡田純一さんにクローズアップしてお話を伺います。

### File.09 岡田純一さん 「家族間のつながりを深めたい」

(南部十勝地方連 広尾単研)



南部十勝地方連委員長と広尾単研会長を務める岡田純一会長は現在44歳。今回の役員改選で新たに南部地方連委員長に就任した。委員長就任にあたり今後の運営目標とその素顔を紹介する。岡田牧場では現在搾乳頭数80頭、牧草地47ha(デントコーン22ha)、年間出荷乳量は707t。これまでに青年部部长・単研会長を歴任されてきた。「酪青研の果たす役割は大きい。特に他地域との交流だけでなく家族間のつながりも増え、充実した生活が送れるようになる」と語る。これからの事業運営について質問を聞かされると「やはり家族間の交流をより活発化させることが運営のカギとなる。家族揃って参加できる行事は思いの外少ない。酪青研でしかできない他地域とのつながりを深めた事業運営を実現できれば・・・」と思いを滲ませた。

### 「酪農・乳業界全体でコロナを乗り越えた」

また、今回の新型コロナウイルスの影響については「どの組織においてもリスクは付き物だが、酪農業界は各組織が連携して生乳需給を助けてくれた。今はまだ大変な時期だとは思いますが、業界全体で乗り越えられれば生産者も安心して生乳を出荷できる」と振り返る。また、今回のコロナショックは自身の牧場経営においても【リスクに備える】ことの大切さを痛感したという。今後は様々なリスク管理を指標化していきたいと語り、「今のバタバタが落ち着いたら家族との時間を旅行でゆっくり癒したい」との事。まずは奥様、息子さん(2人)を連れてゆっくり羽を伸ばしたいと語る。その優しい語り口調と笑顔はきっと家族を癒しているに違いない。座右の銘は「不言実行」、好きな雪印製品はゴーダクラッシュ。今後の活躍に益々期待が募る新委員長だ。



## おいせ 「家族を支えるために」大樹町で鍼灸院開業

今年3月に突如この世を去った山下博前委員長のご子息(山下善己さん)が大樹町で鍼灸院を開業した。それまで善己さんは千葉県鎌ヶ谷市の整骨院に勤めていたが、博さんの訃報を受け「家族の近くにいって支えたいと思った。母親と会社にも自分の思いを説明し納得してもらった」と振り返る。高校時代は陸上部の主将で砲丸投げの選手として第一線で活躍していた。そんな中「人の体のメンテナンスをしたい」という強い思いから鍼灸の門を叩いた。「大樹は酪農の町。父の背中を見ていて体が資本の仕事というのが十二分に分かっていて。だからこそそういった人たちのために少しでも力になれば」と熱を込めて話す。笑った笑顔が父、博さんにそっくりで語り口調もとてもやさしく、施術中も丁寧な対応が伝わる。母の展子さんも善己さんの帰郷を心から喜んでいる。「心強い一言に尽きる。人との繋がりを大切にしたい鍼灸院にしていってもらえれば・・・」と善己さんの新たな門出にエールを送る。

生前は父が大変お世話になりました。父が残してくれた酪青研の皆さんとの繋がりを大事にしていきます。全国の皆さん!大樹町に立ち寄ることがありましたらぜひご利用下さい!

～山下鍼灸院～ TEL:01558-6-3011 ※不定休  
 〒089-2155 北海道広尾郡大樹町字石坂433番地  
 完全予約制で営業時間は9:00～17:00(それ以外は応相談)  
 料金は全身コース(ほぐし+鍼+ストレッチ)¥6,600から  
 お手軽な鍼だけコース(ほぐし+鍼)は¥2,200からと様々。  
 巷で話題の「美容鍼」は¥3,300から。お気軽にお問合せを!



左:展子さん 右:善己さん  
 ↑事務局大山も話題の美容鍼に挑戦しました!

酪農語録「心の貧乏になるな、心の長者になれ」言葉:元衆院議員 深澤吉平